

祝・理研OB会結成50周年記念 特別企画
理研発祥の地で 思い出ばなし会 Omoide Banashi 会

年月日：2024年10月21日（月曜日） 理研設立記念日

散策会

時 間：14:00～16:00

場 所：旧理化学研究所

文京グリーンコート + アイソトープ協会

懇話会

時 間：16:00～18:00

場 所：文京グリーンコート・カフェテリア

企画：役員会 協力：補佐人会

←駒込駅

→東京大学

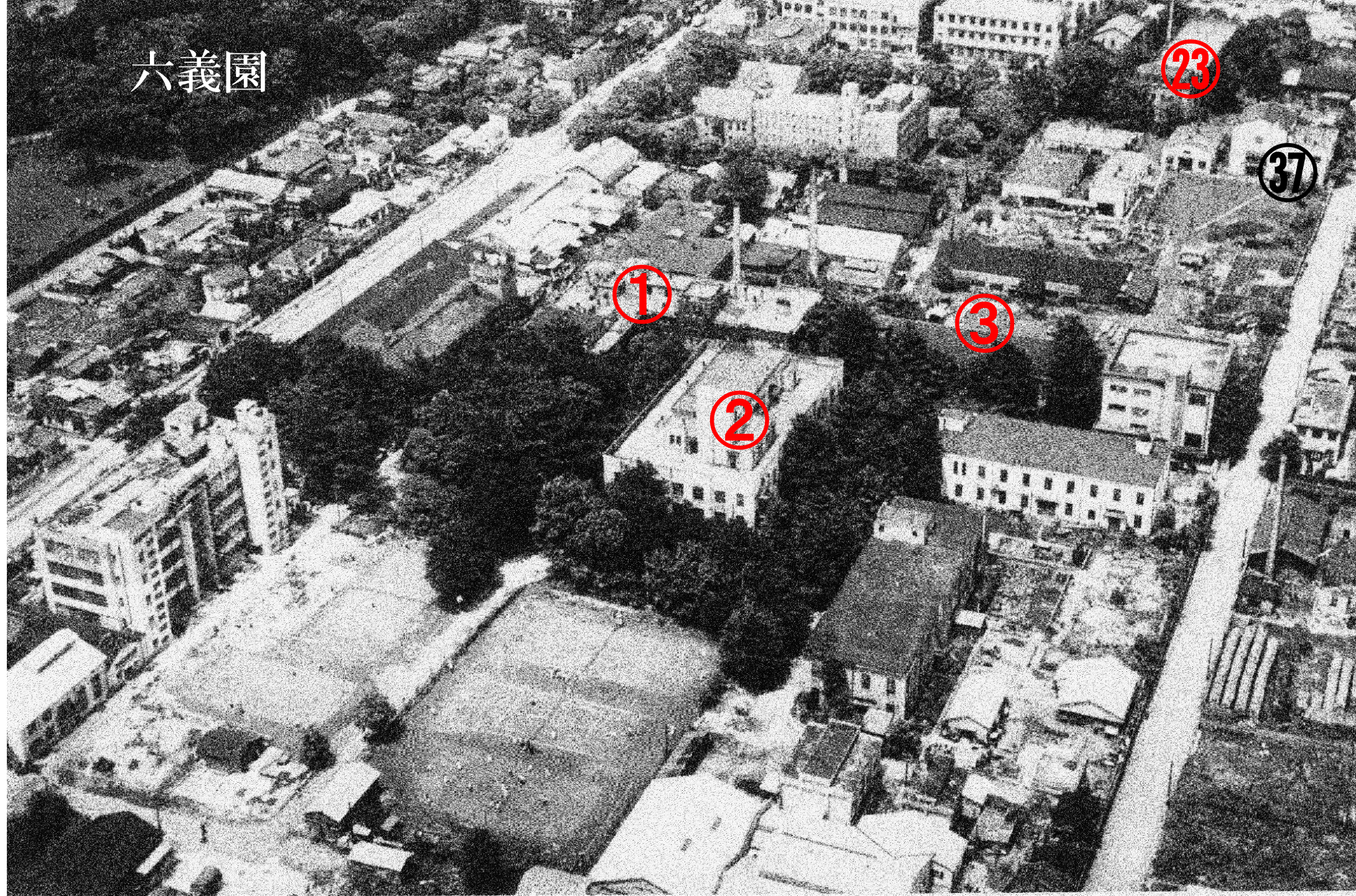
六義園

文京グリーンコート
(株)科研製薬
(初代社長:仁科先生)

小石川高校

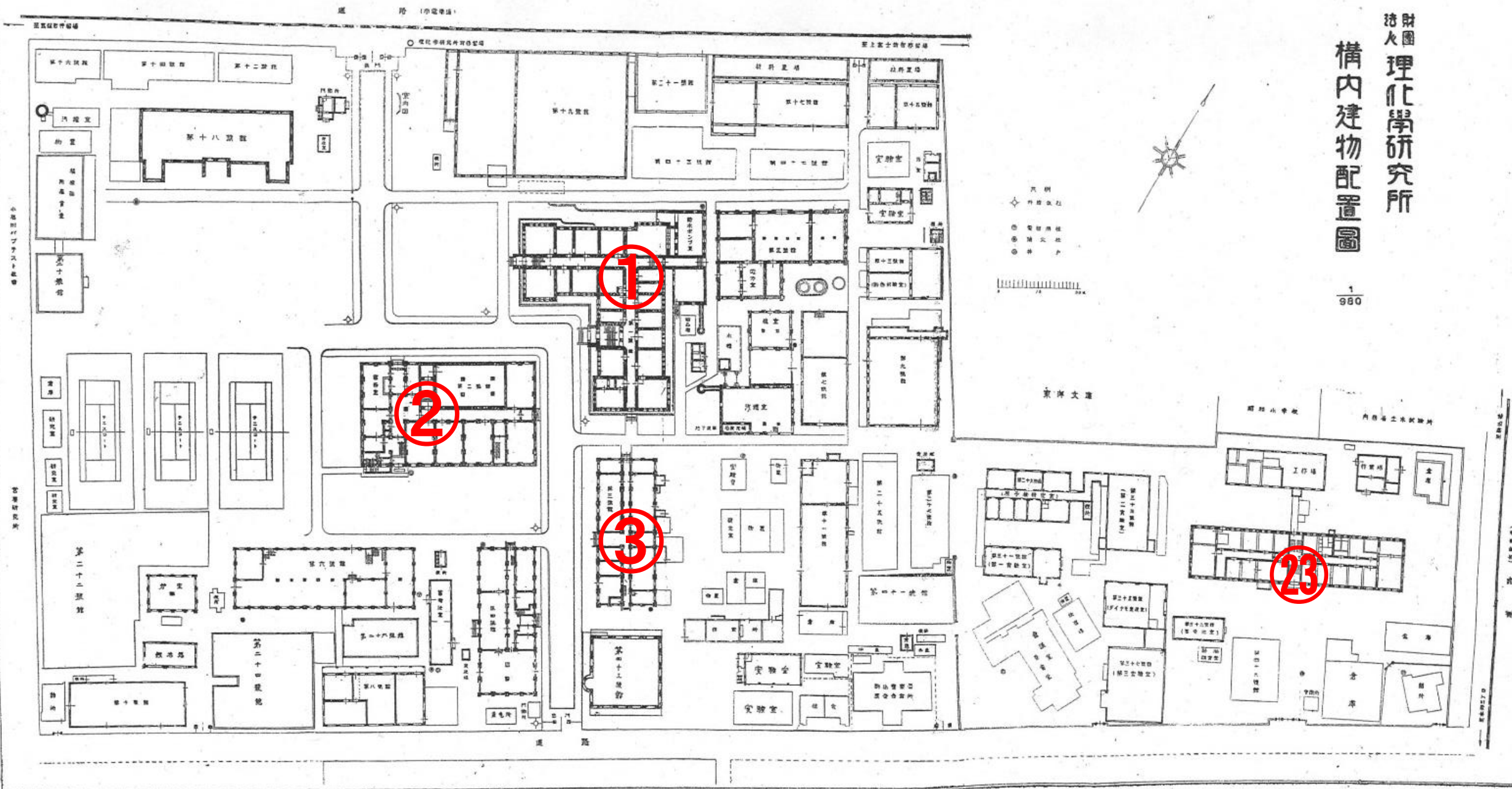
一九五四年
旧理化学研究所

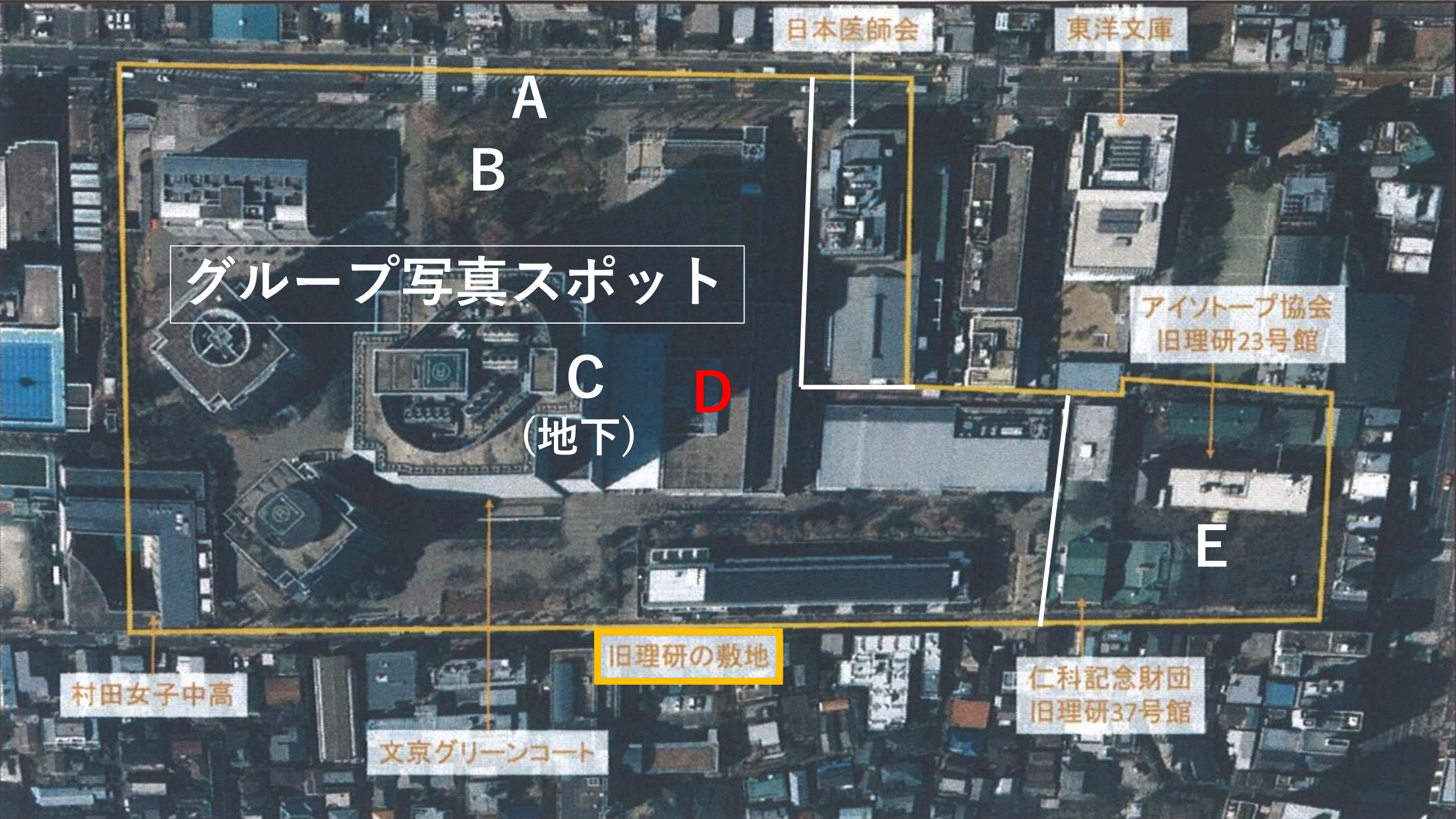
六義園



構内建物配置圖

1/980





日本医師会

東洋文庫

A

B

グループ写真スポット

C

(地下)

D

アイソトープ協会
旧理研23号館

E

旧理研の敷地

仁科記念財団
旧理研37号館

村田女子中高

文京グリーンコート

A

り か が く け ん き ゅ う し ょ あ と
理化学研究所跡

文京区本駒込 2-28-10

高峰譲吉が提唱、渋沢栄一を総代として、皇室の御下賜金、政府の補助金、民間の寄付金を基に、我が国の産業の発展に資することを目的に、国内唯一の自然科学の総合研究所として、1917（大正6）年3月20日に創設された。本部は当初有楽町の東京商工会議所内にあったが、最終的に当地（旧東京府立巣鴨病院の跡地）が選定された。第三代所長大河内正敏は、研究室制度の創出、研究成果の産業化を通して礎を築き、「理研の三太郎」と言われた長岡半太郎、鈴木梅太郎、本多光太郎をはじめ、池田菊苗、寺田寅彦、黒田チカ、仁科芳雄、加藤セチ、朝永振一郎、湯川秀樹ら、多くの科学者を輩出した。

1948（昭和23）年解散、（株）科学研究所が設立され、初代社長に仁科芳雄が就任した。仁科は、ペニシリンの製造販売事業をはじめ、戦後復興に努めた。

1958（昭和33）年に（株）科学研究所は、研究部門（現理化学研究所）と製薬部門（科研化学）に分離、その後、科研化学（株）は科研製薬（株）となり、研究開発型製薬企業として現在も当地に本社を置く。理化学研究所は1967（昭和42）年に埼玉県和光市に移転し、一部の機能は理化学研究所駒込分所として当地に残ったが、2010（平成22）年9月整理合理化計画により発祥の地の歴史を閉じた。

令和4年10月

文京区教育委員会

Bunkyo Green Court
文京グリーンコート



～ 理化学研究所ここにありき ～

理化学研究所（理研）は、大正6年（1917年）財団法人として創立された。理研は歴史上に偉大な足跡を残し、今もなお日本の近代科学の推進役を果たしている。

世界初の原子模型を発表した長岡半太郎博士、KS鋼を発明した本多光太郎博士、世界初のビタミンB1抽出に成功した鈴木梅太郎博士、日本初のサイクロトロン建設をした仁科芳雄博士など、数多くの著名な研究者たちがここに参集した。

また、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士、朝永振一郎博士など多くの優れた研究者を輩出した。まさに、科学者たちの自由な楽園と呼ぶにふさわしい環境だった。

理研は昭和23年（1948年）に改組され、仁科博士を初代社長とする株式会社科学研究所が設立された。この理研の流れを汲む科学研究所が科研製薬の前身である。

B

～ 理化学研究所ここにありき ～

理化学研究所（理研）は、大正6年（1917年）財団法人として創立された。理研は歴史上に偉大な足跡を残し、今もなお日本の近代科学の推進役を果たしている。

世界初の原子模型を発表した長岡半太郎博士、KS鋼を発明した本多光太郎博士、世界初のビタミンB1抽出に成功した鈴木梅太郎博士、日本初のサイクロトロン建設をした仁科芳雄博士など、数多くの著名な研究者たちがここに参集した。

また、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士、朝永振一郎博士など多くの優れた研究者を輩出した。まさに、科学者たちの自由な楽園と呼ぶにふさわしい環境だった。

理研は昭和23年（1948年）に改組され、仁科博士を初代社長とする株式会社科学研究所が設立された。この理研の流れを汲む科学研究所が科研製薬の前身である。

C



E



D



カフェテリア（懇話会会場）



カフェテリア入口

